

## 京都大学飛騨天文台 オンライン特別公開に参加して

建設部門 1984 年院卒 樋口義弘

2021 年 10 月 2 日に飛騨天文台のオンライン特別公開に参加した。

キャンプなどで満天の星空を見て感動した経験はあるが、天文には「ド」がつくほど素人の私が参加しようと思ったのは、オンラインという手軽さからであった。

京都大学には 3 力所の天文台がある。一番古いのが、京都にある花山（かざん）天文台。90 年以上も前の創立で天文ファンにとっては聖地のような存在らしい。その次に古いのが今回見学した飛騨天文台（1968 年創立）で主に太陽観測が行われている。

<https://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/general/facilities/hida/>

そして、最も新しいのが 2018 年創立の岡山天文台で口径 3.8m のせいめい望遠鏡を有する。

飛騨天文台は昼も気流が安定して太陽観測にも適した場所にあり、主な施設は、古いものから 60cm 反射望遠鏡、65cm 屈折望遠鏡、ドームレス太陽望遠鏡（DST）、太陽磁場活動望遠鏡（SMART）。当時は 60cm 反射望遠鏡以外の紹介とデモがあった。

SMART 望遠鏡は太陽全体のフレア観測を行っており、ドップラー効果で電磁波の波長が異なるのを利用してガスの運動速度が計測できること。

65cm 屈折望遠鏡はレンズの望遠鏡としては東洋一で主に惑星の観測が行われる。市民の募金によって制御装置を一新し、ボタン一つで目標天体に望遠鏡を向けることができるようになったとのことで、当時は金星を見ることができた。

DST 望遠鏡は世界屈指の分光器を有し、地上 20m のタワーの上に望遠鏡がある。望遠鏡が高い位置にあるのは太陽観測では地表面付近の空気が暖められて起こる「かけろう」が大敵なためで、タワー自体が熱くなるのを避けるため水で冷やしている。ドームを無くしたことで乱流の影響も避けられるメリットがあるとのことだった。（一方で、雨や雪の影響を受けるので密閉性に気を遣う必要あり）当時は太陽の黒点やプロミネンス（右写真）がはっきり見て感動した。また、見る波長を調整することで全体が見えたり、骨格部分のみが見えたりするのが不思議だった。



※飛騨天文台より提供頂いた



※当日の配信を撮影

2 時間の見学会はあっという間に終わった。参加人数を記録しようと思っていたが、お話を引き込まれて確認し忘れてしまった。私のような素人から、私には質問自体も理解できないような専門的な質問をされ方もおられた。ペルーからの参加者もあり！通信状況が悪くなるハプニングがあったり、やや専門的な説明で難しい部分もあったが、私のような素人でも楽しめた。毎年行われているようなので来年はリアルで伺ってみたい。